

全国シェアトップクラス！ 学習の場を支える“天神チョーク”

三郷市泉 3-7-8
048-952-7171
HP <http://www.tenjin-chalk.co.jp/>



つぶちゃん、私、世界に誇れる三郷の会社を発見したの！
日本を代表するチョークブランド“天神チョーク”で有名な「日本白墨工業株式会社」。今日は、その工場へ見学に行こう！

迎えてくれたのは、2代目で現会長の宮本昭さん。
パワフルで誇りを感じる話しぶりに、チョーク開発・製造への情熱がビシビシ伝わってくる！

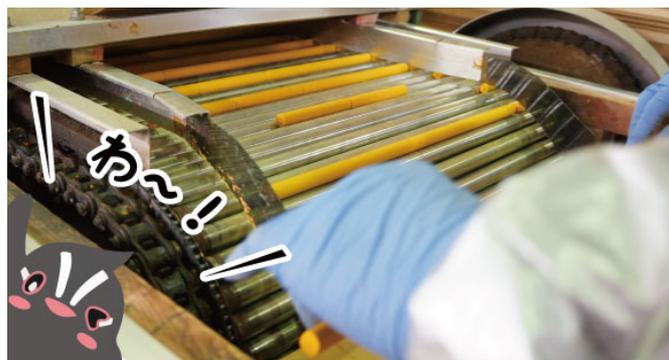


大正13年に、初代の宮本長慶氏（会長の父）が前身となる「文化チョーク製作所」を設立して始めたチョーク製造。
昭和19年に「日本白墨工業」へ社名変更後、3代目にあたる宮本淳司さん（会長の息子さん）が継ぐ現在まで、“天神チョーク”は常に『より良い製品』を目指して改良を加えながら発展してきたんだよ。
「書きやすく折れにくいのが永久課題」と会長が話すほど、そのチョークはやわらかい書き心地と丈夫さの両方が追及されているの。



チョークの主原料は、“石膏”と“炭酸カルシウム”の2種類。
石膏チョークは型に流し込んで、絶妙な硬さになったところで抜き取るのだけど、季節や温度の変化で固まるタイミングが変わり、見極めるには職人の勘が必要のため機械化が難しいんだって。

もう一つの、炭酸カルシウムチョークは、のりと混ぜた生地を細長い筒状にしてから、裁断・乾燥させて作られるんだ。
長年の研究から宮本会長が作り出した効率的な生産ライン。
その鮮やかな流れにビックリだね、つぶちゃん。



天神チョークがさらにすごいのは、常に新たな取り組みの製品が開発されているところ。
色のバリエーション化という発想で、色覚異常の人でも見やすい朱色の赤チョークを開発したり、キューピーマヨネーズで出る卵の殻を60%使った、業界初エコロジーマーク取得のエコチョークを開発したり。



電子黒板なども登場する現代だけど、手書きってやっぱり記憶に残りやすい！
最近では、チョークアートや飲食店などのメニューボードでもよく見かけるほど、黒板とチョークの風合いは再評価されているよね。
いまではガーナ（アフリカ）の教育現場でも天神チョークが使われているそう！



学問の神様、菅原道真公から名づけられた“天神チョーク”。
三郷で作られたチョークが、
これからも世界の学習の場を支えていくなんて自慢だね、つぶちゃん。